

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472601317
法人名	特定非営利活動法人シオン相模原
事業所名	グループホームシオン相模原
訪問調査日	平成25年3月1日
評価確定日	平成25年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601317	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成12月1日	
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原			
事業所名	グループホーム シオン相模原			
所在地	(252-0137) 神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族の望まれることを見極め、可能な限りご希望に添うように支援している。利用者の能力に応じ、家事をしながら生活の喜びを感じていただくことを目指している。「利用者中心に考えます」を合言葉にサービスを提供している。地域の方による独自の災害援助組織(11人)である。「シオン協力会」の活動も活発に行われ、「地域に根ざしたホーム」として見守られている。可能な限り戸外に足を運び、地域の方々と顔見知りになり、地域の中のホームとして交流を深めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成25年3月1日	評価機関 評価決定日	平成25年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは、NPO法人シオン相模原の経営であり、JR橋本駅を降り、バスで10分徒歩5分の住宅地にあり、道路を隔てて前は、日本板硝子の工場になっているが、至って静かな場所にある。このホームは、2階建の1ユニットのホームだが、各居室が、13畳もある広い部屋で、トイレも各室に設置されている。理念の「入居者中心に考えます」として3項目の指針(キリスト教の愛・喜び・平安・寛容を基本に支援/住み慣れた生活/地域との交流)を掲げ、1ユニットというまとまりの良さを活かし、利用者・職員間が家族的関係での支援が行われている。ADLを維持する為に、ペットボトルで作ったダンベル体操や口腔体操をしたり、このホームの男性職員3名全員が、ギター・ウクレレ・オカリナ等の楽器が得意な方ばかりの利点を活かして、午後は、歌の合唱やカラオケが盛んで、皆さん益々お元気ですねと看護師が驚くほどである。

②指針の一つでもある地域との交流は、密接で「地域に根ざしたホーム」を体現している。近隣住民の有志による災害時の援助組織(現在11名)である「シオン協力会」との緊急連絡網が完備しており、ホームの避難訓練にも必ず参加頂いている。最近では、協力会のメンバーとは、日常から親しくして頂き、梅の花見の計画を聞き、何度も下見に行って情報を頂いたり、遠出の際には、一緒に参加頂いたりしている。地域のふるさと祭りの際は民生委員のお宅に利用者を招いて頂いたり、町内会長の紹介で、地域のカラオケ大会を見に行ったりしている。ホーム横のゴミの集積場は、毎日、利用者と共に掃除を行い、すぐ近くの児童遊園の毎月1回の掃除にも参加し、運営推進会議で、町内会長にホームの協力感謝されたこともある。

③ユニークな試みとして、利用者から、満足度アンケートとして食事・入浴・衣服・睡眠・職員の態度・環境の6項目について、答えを引き出し、要望に応えると共に、利用者との密接なコミュニケーションツールとして役立てている。職員にも、振り返りとして、3項目のアンケートを取り、自由に意見を出して頂き、ヒアリングを行い、今後のホーム運営の改善に繋げる工夫も行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム シオン相模原
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「利用者中心に考えます」に沿って日頃どんな思いで介護に携わっているか意見交換をし共通認識を持った。	理念のテーマ「入居者中心に考えます」と「キリスト教の精神・住み慣れた生活・地域との交流」の3項目とを纏め、目の付きやすい場所に掲示し、昨年11・12月には、日頃、理念に沿った介護に携わっているかについて意見交換を行い、理念を振り返る機会とし、共通認識を深めた。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を大切にしている。設立当初より自治会に加入し町内会のイベントにも参加している。自主活動として該当エリアのゴミ置き場の掃き掃除や近隣公園の掃除に参加している。	地域との交流を大切にし、「地域に根ざしたホーム」を体現している。設立当初より自治会に加入し、町内会の行事にも参加している。近隣住民による防災組織「シオン協力会」との連携は密になっている。自主活動として近所のゴミ置き場の清掃や近隣児童遊園の掃除にも参加し、地域の方から感謝されている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の協力会と合同の避難訓練をやった際、認知症の様子を知ってもらう。推進会議に利用者が参加し認知症の人の理解や支援の方法を話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。参加者同士の情報交換をしたりホームの活動状況を開示し、意見をいただきサービスの向上に活かしている。	定期的に2カ月に1回会議を開催している。町内会長・民生委員・包括支援センター等の地域の方にも参加頂き、ホームの活動状況を開示したり、参加者から介護関連法の改正や悪徳商法等のタイムリーな話題も出たり、有意義な意見交換を行い、ホームのサービス向上に活かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告はもとより、日頃のサービスについての問題点や相談などを出向いたり電話で連絡を取り合っている。	市の高齢福祉課には、運営推進会議の報告はもとより日頃のサービスについての問題点の相談等で出向いたり、電話連絡を取ったりしている。包括支援センターとは、空き部屋の件等で連携している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要最低限の玄関施錠につとめ、身体拘束については研修を行い具体的事例にもとづき共通認識、共通理解をし、介護にあたっている。	身体拘束については、研修を行い、具体的事例に基づき、共通理解・認識をし、身体拘束をしない介護に努めている。病院から入所された利用者には、ご家族から拘束帯の要望のケースもあるが、見守りにて使用を避けている。夜間帯は、優先順位をつけて対処し、例えば、前もっての定期的なトイレ誘導で、尿意で急に起き上がる事を避け、転倒リスクを減らす等の工夫も行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い共通認識を持った。年度途中で職員とのヒヤリングの際、振り返り再確認した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度などの研修会に参加し知識を深め必要に応じて関係者と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、解約の際は十分な説明を行っている。不安や疑問などは丁寧に時間かけて説明し理解をしてもらい、納得後契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表者が参加し要望を決めている。又、利用者に満足度アンケートをとり要望をききサービスに反映している。	ご家族の面会時や運営推進会議で参加されるご家族の代表者2名から要望をお聞きしている。ご家族には、年に4回「シオン便り」を送り、ホームの状況をお知らせしている。利用者には、満足度アンケートを実施し、要望を聞きサービスに反映している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議は月1回開催し、問題点や改善すべき事柄を話し合い共通認識、共通理解をもち運営に反映している。振り返りアンケートをとり、ヒヤリングを行い改善すべき点は全員に周知し実行している。	職員会議は、毎月1回開催し、問題点や改善すべき事柄を話し合い、共通理解・認識を持ち運営に反映させている。職員から管理者が作った独自の振り返りアンケート（人的・物的・自然環境に分けた）を取り、ヒヤリングを行い改善すべき点を明確化し、全員周知の上実行に移している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームを時々来所し、管理者及び職員の勤務状況を把握し必要に応じて面談や意見交換をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員の能力の把握に勤め、必要な研修を受講させている。。職場内の研修は担当者を中心に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者及び職員には同業者間の交流会に参加させ意見交換をしている。。また研修時には同業者間の情報交換をし、サービスの向上に反映させている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話せる雰囲気づくりに努め気持ちに寄り添い傾聴し、会話を通し本人の思いや望みをくみ取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安に耳を傾け安心してお任せいただけるように支援している。どんなささいなことでも気軽に話してもらえる環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を傾聴し生活歴、病態、程度、本人との続柄など何をどのように支援するのかを見極め安心してもらえるような支援をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人が生活の主体者であり職員は本人の生活を側面から支え一緒に考え自己決定を尊重している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は「本人」の気持ち「家族」の気持ちにより添いながら、出来る限りホームの様子を伝え家族の絆がとぎれないように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に本人、家族と話し合い可能な限り入居後も馴染みの人と交流が出来るようにしている。	入居前に、本人・ご家族との確認をした上で、可能な限り、馴染みの人と交流ができるように支援している。入居前の親しい友人と電話連絡したり、来て頂いたりしている方もいる。毎週、教会に礼拝に行かれる方もいる。入居前の住居の花壇が見たいという方をお連れしたこともある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、お互いの存在を感じながら生活できるように、関わり合う場面、助け合う場面を、職員は意識して働きかけ、利用者同士、関わり合う喜びを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に来所し、面談、相談に来てもらえるようなサービスを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とのコミュニケーションを密にし、利用者の声に耳を傾け、可能な限り希望や意向に添うようにしている。満足度アンケートを実施し希望や意見をきいている。	利用者とのコミュニケーションを密にし、利用者の声に耳を傾け、可能な限り、希望や意向に添うようにしている。ユニークな試みとして、利用者への満足度アンケートを実施した結果、独居だった利用者から鍋物を食べたことがないので、食べみたいとの要望が出て、白菜鍋を実行し、喜ばれた事もある。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の住まいを訪問し家族、本人と面接を実施して本人の生活歴、暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子、心身の状態を見逃すことのないように記録、伝達に配慮し職員間で情報を共有し把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で個別ケアについて話し合い介護計画に反映している。毎日の引き継ぎの際、利用者に変化があった場合には必要な関係者と話し合い対応している。	職員会議で、個別ケアについて、職員の気付きを出し合い、話し合いをして介護計画の見直しに繋げている。ケアプランの見直しは、何もなければ、6カ月毎に見直しを行っている。毎日の引き継ぎの際、利用者に変化があった場合は、医療機関や看護師も含めた必要な関係者と話し合い対応している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は変化がある場合は細かく記載し介護の見直しをし情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人及び家族のニーズの把握に努め、可能な限り要望に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民、民生委員、保育園、ボランティアとの交流、関わりを持ち、行事などには積極的に参加している。本人が心身の力を発揮できる場として買い物、ゴミ集積場の掃除などに参加し暮らしを実感してもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問医療、月1回の訪問歯科、月4回の訪問看護を受け、必要に応じて専門病院の受診を行っている。	協力医療機関の毎月2回の訪問診察、毎月1回の訪問歯科、毎週1回の訪問看護を受け、利用者の健康管理を行っている。精神科の専門病院の受診している方もいる。必要の場合は、協力医療機関の紹介で、専門病院での受診を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は一人ひとりの利用者の健康管理に留意している。、看護師の定期訪問の際、相談をして適切なアドバイスを受け快適に過ごせるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、安心して必要な治療を受け早期退院につながるよう利用者、家族、病院関係者と連携して情報交換を行っている。日頃より心配事がある場合は医療機関に相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を作成し、同意書を得ている。具体的な事例が出来た時にはチームとしての計画を指針にそって立てる。	契約時に、重度化した時の対応指針を作成し、同意書を交わしている。重度化の具体的な事例が、発生した時には、医療機関・看護師・ご家族との話し合いを持ち、チームとしての計画を指針に沿って立てる予定である。これまではすべて、重度化と共に医療行為が発生し、最終的には、病院への移行されている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき応急手当や初期対応を学んでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災のマニュアルがあり、避難訓練の時には、それにそって訓練をしている。地域の協力会と合同訓練をしている。消防署職員による初期消火訓練をした。	地震、火災時のマニュアルに沿って避難訓練を行っている。今年度は、3回行い毎回地域のシオン協力会と合同訓練を行っている。直近の2月の訓練では、非常ベルの使い方を習ったり、シオン協力会への緊急連絡網を実施した所、協力会のメンバーで一番早い方は4分でホームまで駆けつけて頂いた。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者さんは人生の大先輩である」ことに共通意識を持ち、言葉使いには特に配慮している。入職時に秘密保持、誓約書を取り交わし守秘義務について徹底している。	「利用者さんは人生の大先輩である」事に共通意識を持ち、言葉遣いには特に配慮し、丁寧な言い方、上から目線の話し方の禁止、必要以上の敬語は慎む等、喚起している。外国人の職員に対しては、細やかな指導をしている。入職時に秘密保持の誓約書を取り交わし、守秘義務は、徹底している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	満足度アンケートを実践し、個々に面談を行い、要望をきき可能な限り希望に添うようにしている。生活の一つ一つの場面で自己決定できるよう言葉かけを工夫し支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を考慮し、本人の気持ちを大切にし、個々のペースに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類の交換、整容の際、組み合わせ等ともに考え援助し、おしゃれをする喜びを共有している。行きつけの美容院に行けるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう準備は交替で職員と一緒に作り、片付けも職員と一緒にしている。季節に応じた好みの物を取り入れている。	メニューと食材の手配は、業者に依頼している。食事が楽しみなものになるよう準備は、交代で職員と利用者が一緒に作り、片付けも利用者の分担を決めて、手伝って頂いている。花見や紅葉狩り際には、外食としている。クリスマスには恒例の行事として、出張出前寿司が来て、利用者・職員の楽しみになっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取状態を把握し配慮、支援をしている。又必要におおじてかかりつけ医と連携し栄養摂取が十分取れるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、自立に向けての支援を行っている。	毎日の排泄記録表から一人一人の排泄パターンを把握して、利用者毎に声かけのタイミングを定め（食後すぐとか、2時間間隔とか、2時間半間隔とか）、トイレに誘導し、トイレでの排泄を心がけ、排泄の自立に向けての支援を行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、個別の原因や影響を職員間で共有し連絡し合い、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	風呂は毎日準備し個々の希望により心地よい気持ちで入浴してもらえるよう声かけしている。利用者の気持ちを尊重し無理じいはしない。	風呂は毎日準備し、個々の希望により心地よい気持ちで入浴頂けるよう声かけしている。週2回の入浴を基本として予定表を作っているが、利用者の気持ちを尊重して無理強いはいしない。風呂場と脱衣場の間に半透明のカーテンが配置され、自立した方を脱衣場から見守れるよう工夫されている。以前に入居されていた利用者のお孫さんが菖蒲やゆずを未だに持参頂き、お湯にいれ、利用者の方々の楽しみみとなっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝リズムや習慣を把握し休息を促したり、季節に合わせた温度調節、寝具調節を行い、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬説明書を職員が閲覧し、目的、用途、用量を把握している。処方の変更がある場合必ず引き継ぎ周知に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、家事全般において本人の得意なこと（繕いごと、リサイクル物処理、植物の世話等）役割を担っていただいている。カラオケ、歌、読書、散歩、トランプ等生活を楽しみ、気分転換が出来るよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ近くの公園まで散歩をしたり近くのスーパーまで買い物をしている。季節に応じ少し遠くまでドライブしている。行きつけの美容院や買い物をしたいものがある時は職員と一緒に出掛けている。	天気が良ければ、主に午前中、近くの公園まで散歩し、午後にはスーパーまで日用品の買い物に出かけている。季節感を味わう為、年3回（梅・桜・紅葉見物）は、ドライブも兼ねて遠出している。行きつけの美容院や、特別の買い物をしたい時には、職員と一緒に出かけている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じ、お金を所持し買い物ができるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時、お礼の電話を入れたり、家のことを気にしているような時には電話をし家族と話をする機会を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花や夏野菜を植え水やりをしたり草むしりするなど季節感が感じられる。ホールでは行事や外出時の写真を掲示し会話がはずみ居心地の良い環境づくりに努めている。	毎朝のリビング・トイレの掃除は、自立度の高い利用者の仕事として、職員と一緒に日常的に行われている。夏場は、季節の花や夏野菜を玄関前のプランターに植え、水やりや草むしりをして頂いている。ホールでは、行事や外出時の写真を掲示したり書道の作品を飾ったりして、利用者との会話の材料にしている。午後は、楽器を演奏出来る職員と共に合唱したり、カラオケをしたりして楽しんでいる。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にはベンチ、玄関には長椅子、ホールにはソファを置き気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広々としている。居室には利用者の家族の写真や使い慣れた物を置き馴染みのある居心地の良い空間となるよう工夫している。	居室は13畳もあり、広々として、トイレも設置され、自立度高い方は自室のトイレを使っている。3日に1度は、利用者職員で掃除をしている。利用者の家族の写真や使い慣れた家具・備品を居室に配置し、利用者にとって馴染みのある居心地の良い空間となるよう工夫している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、階段等の共有スペースには手すりを設置している。身体状況に応じてエレベーター使用を勧めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
シオン相模原

作成日

平成25年3月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	職員同士、なんでも言える関係がない。	職員同士信頼しあい働きやすい職場づくり。報告、連絡、相談の言えるチームづくり。	笑顔で挨拶を交わす。自分から率先して仕事をする。わからない事は聞く。耳を傾ける。	1年間
5	9	利用者の要求をどこまで受け入れていいのかばらつきがある。	全利用者が安心して生活できるホームづくり	今迄の生活歴を知り、どこまで要求を受け入れその人らしく過ごせるか話し合う。	1年間
3	12	急変や事故発生時に対する応急手当や初期対応の訓練がまだ十分ではない。	利用者の状況を把握し異変に気付く能力を身につけ、適切な初期対応が出来る。	職員会議や引き継ぎ等で利用者の様子を知る。緊急時のマニュアルにそって実践する。消防署員に指導を受ける。	1年間
4	7	高齢者虐待について認識に欠けていた。	高齢者虐待の知識を学び実践に即した研修をし虐待を防ぐ。	職員会議等で研修をする。どんなことを学びたいかアンケートをとる。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。